

1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

学校名	倉敷市立東陽中学校	実践者名	美藤 紫穂
教科	音楽	学年	第2学年
活用内容	動画撮影	実践日	令和4年1月12日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 1
単元・内容等	ボディパーカッションで工夫して表現しよう。		

活用の概要（目的・活用場面・使用アプリ名を含む）

【概要】

班で工夫して8小節の曲を作曲する。リズムの組み合わせ、音の種類、動作の3つの表現の工夫を考える。作品を実際に演奏している様子をタブレット（ロイロノート・スクール）で撮影し、作品の修正を行う。それを参考に、個人で工夫して8小節の作曲をする。全4時間構成。



【1時目】

- ・個人で4小節の曲を作曲し、自分の演奏している様子を撮影する。
- ・動画を見ながら、リズムの組み合わせや順番を変えより納得のいく作品になるようにする。
- ・演奏したものとイメージしたものが同じであることを確認する。



【2～3時目】

- ・班でテーマに合わせた9小節の曲を作曲し、班で演奏している様子を撮影する。
- ・完成途中でも動画を撮影し、班の中での完成度が同じになるようにする。
- ・終わりにその時点でできたところまでの動画を撮影し、振り返りができるようにする。
- ・次の授業の始まりに動画を確認し、前時の復習をする。



【4時目】

- ・発表の様子をロイロノート・スクールで共有する。

実践者の手ごたえ	児童生徒・保護者等の主な反応や声
<p>頭で考えたリズムを実際に演奏して客観視することで、表現したいことに近づけて作曲をすることができた。繰り返し動画を確認することで、成長の過程を実感できた。</p>	<p>(生徒の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に演奏した様子を動画で見ることで、より多様な工夫をすることができた。 ・インカメラだと反転してしまうので、アウトカメラでの撮影のほうが後から確認した時に分かりやすいということが分かった。